

コーポレート・ニュース

2005年12月8日

お問い合わせ先：

張 毓宗、東京 電話 03-4550-8724

三次啓之、東京 電話 03-4550-8721

田辺敏子(メディア・コンタクト)、東京 電話 03-4550-8411

プレスルーム(電子メールによる配信、送信トラブル)

電話 03-4550-8411 Fax 03-4550-8740

電子メール tokyo_pressroom@standardandpoors.com日本語ウェブサイト <http://www.standardandpoors.co.jp>**S&P、中小企業を対象とする「日本 SME 格付け」販売開始、世界に先駆け日本で**

(2005年12月8日、東京=S&P)スタンダード&プアーズは、8日、日本リスク・データ・バンク株式会社(RDB)と共同で日本の中堅・中小企業を対象とした日本SME格付け(SME=Small & Medium Sized Enterprise)のサービスを開始した。スタンダード&プアーズは100年以上にわたり世界の金融市場において信用格付けを付与してきたが、中堅・中小企業のみを対象とした規準と格付けスケールを開発し、格付けを付与するのはこれが初めてである。中立的な立場からSME格付けを提供することによって、中堅・中小企業の情報開示の向上や資金調達が多様化に貢献する。

日本SME格付けは、日本国内において非上場、かつ年商10億円から100億円の日本企業を対象とする信用格付けで、スタンダード&プアーズが伝統的に手がける格付けとは全く別の格付け手法に基づく新しい格付け体系である。日本SME格付けは最も信用力の高い「aaa」から「ccc」までの7段階で示される。スタンダード&プアーズが従来用いている大文字のスケールを中小企業にそのまま適用すると、概して格付けが低めの水準に集中して中小企業間の信用格差が現れにくい。今回の「aaa」から「ccc」の格付けスケールは、従来の格付けスケールとは異なるスケールとして新たに開発されたものであり、中小企業セクターの中における信用力の相対的水準を表すことを目指している。

多数の企業を対象とするためスタンダード&プアーズとRDBが共同開発した格付け付与モデルをベースに、日本SME格付け独自の手法によって決定され、原則として年1回更新される。通常の格付けとは異なり、アナリストが個別企業の分析を実施することはない。日本SME格付けは、ある一時点でのデフォルトの蓋然性を算出する中小企業クレジットモデルをベースに、すでに海外の多くの銀行で利用されている中堅・中小企業の格付けを定量的に推定するスタンダード&プアーズ独自の格付けモデル、クレジット・リスク・トラッカーを活用することによって、短期的な業績の変動によって格付けが乱高下する状況を回避し、信用格付けとして参照されるに耐えうる信頼性を確保している。

スタンダード&プアーズの在日代表である張毓宗は「日本SME格付けは中堅・中小企業の信用力の透明性を向上させることを通して、業務効率性の改善、資金調達が多様化、知名度の向上、人材の採用の促進、経営管理の指標、取引先の拡大といったさまざまな効果をもたらすと期待している」と述べる。

一方、RDBの大久保豊社長は、「日本SME格付けはRDBの誇る100万件を超える中小企業に関するデータとスタンダード&プアーズの格付けのノウハウを融合して開発された画期的な格付けである。客観的な信用力の提供者として世界的に知られているスタンダード&プアーズから提供される同格付けは、日本の中小企業の信用力を図るベンチマークとして広く受け入れられていくものと信じており、金融機関の同マーケットに対する取引の推進や中堅・中小企業のビジネス活性化に大きく貢献するだろう」と期待を込めて述べている。

日本SME格付け取得の申し込みは、複数の取り扱い銀行で受け付ける。現在、日本SME格付けの申し込みができる銀行は以下のとおりであり、今後取り扱い銀行の数も増えていく予定である。

愛知銀行、鹿児島銀行、埼玉りそな銀行、静岡銀行、荘内銀行、スルガ銀行、千葉銀行、東京都民銀行、東京三菱銀行、西日本シティ銀行、百十四銀行、福岡銀行、もみじ銀行、UFJ銀行、りそな銀行（50音順）

スタンダード&プアーズについて

スタンダード&プアーズは中立的な立場から信用格付け、指数、リスク評価、投資調査・データ・評価を提供する世界有数の金融サービスプロバイダーである。世界の金融市場の欠くことのできないインフラストラクチャーとして、140年以上にもわたり、投資家が投資活動や意思決定においてより自信に満ちた判断ができるよう、独立したベンチマークを提供し続けている。

日本リスク・データ・バンク株式会社について

日本リスク・データ・バンク株式会社は、銀行やリース会社など50社以上から提供された中小企業の財務データを標準化し、参加行に提供するデータベースコンソーシアムである。データの精査、指標計算などを手がけ、会員行に提供している。

（参考資料）

SME 格付け	格付けの定義
aaa	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力は極めて高い。スタンダード&プアーズが付与するSME格付けのなかで最上位の格付け。
aa	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力は非常に高く、最上位の格付け（aaa）との差は小さい。
a	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力は高いが、上位2つの格付けに比べ、事業環境や経済状況の悪化からやや影響を受けやすい。
bbb	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力は適切であるが、事業環境や経済状況の悪化によって債務履行能力が低下する可能性がより高い。
bb	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力がやや脆弱である。事業環境、財務状況、または経済状況の悪化に対して大きな不確実性、脆弱性を有しており、状況によっては債務を期日通りに履行する能力が不十分となる可能性がある。
b	日本の中小企業間の比較において、債務を履行する能力が脆弱である。事業環境、財務状況、または経済状況が悪化した場合には、債務を履行する能力や意思が損なわれやすい。
ccc	日本の中小企業間の比較において、現時点で脆弱であり、その債務の履行は、良好な事業環境、財務状況、および経済状況に依存している。事業環境、財務状況、または経済状況が悪化した場合には、債務を履行できない可能性が高い。

*SME格付けは、スタンダード&プアーズのグローバル・スケールの格付けや日本以外の国におけるナショナル・スケール格付けと、直接比較できるものではない。また、SME格付けは、モデルに基づくことを強調するため、「bbb」のように小文字で表記する。通常の格付け規準を適用した場合、SME格付けと同水準の格付けが付与される可能性は低い。

スタンダード&プアーズは、マグローヒル・カンパニーズの一部門であり、完全に分離・独立した経営体制に基づき、世界の金融市場に対して、信用リスク分析および格付けサービス、株価指数、株式リサーチやデータといった金融情報を提供している。当社の提供する数多くの商品には、世界の主要株価指標であるS&P Global1200、米国の主要株価指数であるS&P500、日本および海外の投資家の投資指標となるS&PJapan500、22万本以上の有価証券およびファンドの格付けなどがある。現在、世界20カ国で総勢6,300名以上のスタッフを擁する。詳細は当社ウェブサイト(www.standardandpoors.co.jp)まで。

マグローヒル・カンパニーズは、スタンダード&プアーズ、ビジネスウィーク、マグローヒル・エデュケーションなどを通じて、金融サービス、教育、ビジネスに関する情報を提供する、国際的な情報サービス企業である。世界40カ国に300カ所以上の拠点を有している。詳細はウェブサイト(www.mcgraw-hill.com)まで。